



まほろん通信

VOL.14

(平成16年10月15日発行)
(財)福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
白河市白坂字一里段86
TEL 0248-21-0700(代)
FAX 0248-21-1075
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



体験発掘ツアー

まほろんでは、毎年夏の終わりに、一般の方々に県内で行われている発掘調査に参加していただく「体験発掘ツアー」を実施してきました。発掘調査は、開発に伴って破壊される遺跡を事前に調査・記録するためや、学術的な目的のために行われるものです。まほろんに収蔵されている様々な資料も元は発掘調査によって掘り出されたもので、福島県の歴史を知る上で貴重な資料となっています。しかし、実際に作業を行うのはそれに携わる調査員と作業員ですので、一般の方々にはなかなか馴染みのない作業だと思われる。「体験発掘ツアー」はこのような作業をみなさんに身近に体験してもらおうイベントで、当館の体験学習関係のイベントでも人気のメニューとなっています。

4回目の今回は、船引町教育委員会のご協力でおたいら船引町大平遺跡で行い、家族連れなど21名のみなさんが参加されました。大平遺跡は、縄文時代の集落遺跡で、比較的狭い範囲の中から中期を中心とした生活の痕跡が見つかっています。担当者の説明を受けた後、参加者のみなさんで移植ゴテと「み」を携えて、土層を観察するための土手の掘り込みを行いました。この遺跡では、縄文土器などの遺物がたくさん見つかっており、今回の掘り込み範囲内からも多数の縄文土器が掘り出されました。遺跡の性格によっては、遺物の量が少ないこともありますが、今回はたくさんの土器を見つけることが出来たので、参加者のみなさんも満足されたことと思います。



体験学習

実技講座「カラムシから布をつくろう」

まほろんでは、敷地内で栽培しているカラムシを使用しての布づくりを行っています。今年度も7月10日・8月28日・10月2日の3回にわたり、カラムシから繊維を取り出して糸を撚り、それをアンギン台で編んでコースターなどを作成しました。また、講座には幅広い年齢層の方々が参加してくださいました。

『カラムシ』と聞くと、南会津にある大沼郡昭和村を連想される方も多いようです。昭和村は本州唯一の生産地として、その技術や生産用具が国選定保存技術・県指定有形民俗文化財に登録されています。また、巷ではちょっとした韓国ブームですが、民族衣装のチョゴリにもカラムシを原料とした布が使用されています。韓国では伝統的な生産地が各所にあり、オモ二達が良質なものを織りあげています。

でも、カラムシは決して特別な植物ではありません。イラクサ科の多年草で、生育の良いものは大人の人の背丈よりも大きくなり、シソが大型化したようなイメージの植物です。来館者の方からは、「お盆にはお供え用のだんごをカラムシの葉にのせてたんだよ。」とも教えていただきました。私たちの身近にある植物として、ずっと昔から人々の生活に溶け込んでいたものと考えられます。今回はカラムシの歴史について、実技講座を終えた感想も交えながら皆さんにお伝えしたいと思います。

江戸時代になって各地で木綿栽培が盛んになるまで、



<カラムシの刈り取り（7月10日）>



<苧引き（7月10日）>

衣類の原料は麻類が中心でした。日本で利用されてきた麻類は大麻とカラムシの大きく2つに分けることができます。カラムシと人の関わりは古く、縄文時代草創期～早期の鳥浜貝塚（福井県）からは種子が発見されており、縄文時代晩期の中山遺跡（秋田県）からはカラムシを使用した編み物が出土しています。弥生時代になると機織りの技術が普及し、タテ糸とヨコ糸が格子状となる平織の布が登場します。東日本の遺跡からの出土例は乏しいのですが、麻類を原料とした布は日常着として普及していたものと考えられます。

奈良時代になると、布も米と同じように税として納められています。絹・綿と区別された「庸布」「調布」は麻織物と考えられ、正倉院に現存するものの中には納められた地域がわかるものもあります。それら麻織物の原料は大麻2割に対し、8割がカラムシです。「日本書紀」にはカラムシ栽培を推奨する記事も見受けられ、需要の高まりが認められます。昭和村では中世以降からの生産の歴史を辿れますが、木綿が庶民の手に入るようになるまでは各地で栽培され、製品化されていました。

さて、今回の実技講座を通して、強く感じたことがあります。春先の畑作り、夏場の刈り取り、苧引き、それから冬場の機織りに向けての糸撚りと、布づくりは1年を通じた地道な作業の連続であるということです。特に糸の撚りは、手間と根気が必要です。今回はアンギン台を使用した編み物を作成するため、手で撚りをかけて太めの縄状に仕上げました。それでも半日かけても数mほどしか進まず、肩も目も痛くなってしまいました。作業を終えたあとは糸くずも棄てがたい気がします。

10～1月の行事予定

期 日	体験イベントメニュー	内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費
10月24日(日)	埴輪づくり	小型の埴輪をつくります。	〆切りました	20名		200円
11月14日(日)	土器・埴輪の野焼き	土器と埴輪の野焼きをします。	—	—	小学生以上	—
11月21日(日)	土器づくり4	小型の土器をつくります。	11月12日	20名	小学4年生	100円
12月11日(土)	凧づくり	竹ひごや和紙で凧をつくります。	12月3日	20名	以下は	200円
12月19日(日)	土器の野焼き4	11月につくった土器の野焼きをします。	—	—	保護者の付き	—
1月16日(日)	土器づくり5	小型の土器をつくります。	12月26日	20名	添いが必要	100円
12月5日(日)	餅つき大会	再建された奈良時代の家で餅をつきます。	—	—	どなたでも	無料
1月9日(日)	第1回双六大会	昔の遊び「双六」の大会を行います。	12月28日	20名		
館長講演会						
10月23日(土)	シリーズ『考古学からみた“ごはん”と“パン”』第4回「麦づくりができるまで」		先着順	60名		
11月27日(土)	シリーズ『考古学からみた“ごはん”と“パン”』第5回「麦の広がりー西アジア・ヨーロッパから中国ー」		先着順	60名	どなたでも	無料
12月18日(土)	シリーズ『考古学からみた“ごはん”と“パン”』第6回「世界の食文化を考える」		先着順	60名		

まほろん秋のてんじ

ふくしまの重要文化財

考古資料 古墳時代・はにわ編一

期間 10月2日(土)～12月5日(日)

今年のまほろん秋のてんじは、重要文化財に指定されている県内のはにわを紹介し、おだやかな笑み、いかめしい「へ」の字口、美しい衣装。私たちは、はにわ人たちの造形の見事さや表情ばかりに目をうばわれがちです。しかし一方では、はにわ人たちの見事な造形は、王者同士のつながりのあらわれでもありました。ふくしま

にはにわたちは、古墳時代の中で、どのように変化を遂げてきたのでしょうか。以下で主な展示品をご紹介します。

1 埴輪男子立像(泉崎村原山1号墳出土 古墳時代中期)

どっしりとした体格と力強いふんどし姿から、力士のはにわと考えられています。右手を上げて左手を腰にあてるポーズは、現代の土俵入りに共通するポーズです。

原山1号墳から出土したはにわは、音楽を奏でる者や踊りをおどる者など、人物はにわのバリエーションがたいへ



ん豊かなのが特徴です。

2 甲冑形埴輪(本宮町天王壇古墳出土 古墳時代後期)

短甲と呼ばれる、鉄板を張り合わせたよろいと、つばの付いたかぶとを表したはにわです。顔や手足の表現がなく、武人はにわが登場する以前の特徴を備えています。

3 陶棺(いわき市後田古墳出土 古墳時代後期)

陶棺とは焼物でできた王の棺で、大正2年に発見されました。西日本、とりわけ中国地方や近畿地方に多く見られますが、東日本では、ごくわずかしが類例がなく、東北では唯一のものとなっています。当時の政治や文化のありようを考えるうえで、貴重な資料です。



シリーズ復元展示

前回につづき、平安時代の鑄造遺跡(福島県新地町向田A遺跡)出土の鑄型から復元した鉄製梵鐘のお話しをします。

さて、前回は1回目の梵鐘制作がカーボンボイリング現象(原料となる鉄鉄中の炭素分が空気中の酸素と反応し、火花などが発生する現象で、鑄物製品にあばた状の痕跡やひび割れができる)により失敗したお話しをいたしました。

これを受け、2回目の制作では、砂鉄原料の銑鉄5:鉄鉱石原料の銑鉄5の割合として鑄込みました。今回は、僅かにカーボンボイリング現象が起きましたが、みごとに成功いたしました。火花の発生も少なく、鑄上がった梵鐘にもヒビ一つなく、僅かに龍頭や梵鐘の上方(上帯や乳の間)に浅いあばた状の痕跡が認められるのみでした。今回のテーマとした鉄製梵鐘の音色も「カーン」という非常に甲高い音で、余韻は約1分ほど続きました(この復元梵鐘の音色は、まほろんのホームページで聞くことができます。ぜひ、一度お聞きください。)

この2回目の鑄込み成功に、ほっと胸をなで下ろしましたが、平安時代の工人たちが使用した原料(銑鉄)と、2回目で鑄込んだ原料は異なっています(平安時代の工人たちは、砂鉄原料の銑鉄で製品を制作していたと考えられます。)。このため、3回目は、平安時代当時の原料に近づけるために、砂鉄原料の銑鉄を使用することとしました。ただ、この原料で鑄込んだ場合、おそらく1回目と同様、カーボンボイリング現象が起きるため、これを抑

える何らかの対策を講じる必要があります。しかも、この対策は平安時代の工人たちが採用した可能性が高いものでなければなりません。

この対策の絞り込みは非常に難しかったのですが、相馬地方の砂鉄に多く含まれているチタン成分を利用することにしました。酸素が鉄に含まれる炭素と反応するのではなく、チタンと結びつくようにしたわけです。

この対策により、3回目の制作は、見事に成功しました。しかしながら、できたばかりの梵鐘を叩いた瞬間、腰を抜かささんばかりに落胆しました。2回目にあれほど響いた鐘の音が、全く響かなかったのです。鉄製鑄物製品の制作では成功を収めたものの、音を鳴らす梵鐘としては大失敗でした。

このように、3回の制作を通して、いかに鉄製の梵鐘復元が難しいかを痛感しました。

おそらく、今から1,200年前の平安時代の工人たちも、今回のような様々な困難に直面したと思います。そして、色々な対応策を練りながら、鉄製の梵鐘制作を行ったと思います。まほろんでは、今後も資料の復元を通して、今では残っていない技術の復元にこだわっていききたいと思います。



<館長による復元した鉄製梵鐘の撞き初め>

研修課より

平成16年8月4日(水)～6日(金)、船引町教育委員会のご協力で、船引町の大平遺跡において、「教職員発掘調査体験研修」を開催しました。本年は教職員経験者研修の4名も含め15名が参加し、たくさんの土器が出土し、参加者もたいへん感激した様子でした。

平成16年10月23日(土)～24日(日)にかけて、原



<研修のようす>

総務管理課より

メッツの竹内君、活動100ポイント達成！

「まほろんサポーター・メッツ」とは、まほろんの活動のお手伝いをしてくれる小学校5年生以上の方です。まほろんの田んぼや畑の手入れ、薪運び、活動室や屋外の体験活動(火おこしや弓矢・槍投げ等)の補助をします。メンバーには活動の証として、1日1ポイントずつ、ポイントカードのポイントが増えていきます。

このほど、メッツ・メンバーの竹内伸也君(白河中央中3年)がついに100ポイントを達成し、まほろんより活動記録証明書とまほろんボランティア関連グッズが贈られました。

竹内君は、土日や夏休み中、ほぼ毎日お手伝いをしてくれました。火おこしと槍投げが得意で、来館者にわかりやすく教えてあげる姿は大変頼もしいです。夏休みの弓矢体験をきっかけに、現代の遊びよりも古代の遊びに興味をもち、メッツ・メンバーとしてお手伝いをするようになりました。活動を通じて年上の人とも接する機会が増え、家族から以前よりも大人になったと言われるそ

まほろんからのお知らせ

年末・年始の休館日について

まほろんは、年末の12月27日(月)から年始の1月4日(火)までの9日間休館いたします。

1月5日(水)からは、平常通り開館します。



<まほろんで制作した石庖丁>

町市桜井古墳公園ガイダンス施設を会場に「体験学習支援研修3」石庖丁作りを予定しています。

粘板岩を拾いに行き、割って、磨くという作業になります。上手に完成しますと、上の写真のようなきれいな石庖丁ができます。

学校の先生方・公民館の職員の方などふるってお申し込み・ご参加ください。(ご都合がつかない場合、1日のみの参加もOKです。)



うです。

それでは最後に、竹内君からの一言です。

「達成できてうれしいです。まほろんには不思議と毎週来たくなんです。高校に入ってもなるべくがんばって続けたいと思います。いずれは研修を受けて、『まほろんボランティア』として活動したいです。」

まほろんサポーター・メッツは随時メンバーを募集しております。皆さんも一緒に活動してみませんか？

ご利用案内

開館時間	9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館)国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)
入館料	無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。)
その他	団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。